

地域生活支援事業の種類ごとの実施に関する事項

※ 第1部会が所管する分野1～3に該当するもの

本市では、全ての市町村が実施することとなっている「必須事業」を中心に、以下の事業を実施しています。

計画では、市が実施する地域生活支援事業について、事業量の見込み及び各年度の見込み量確保のための方策を定めます。

各年度における事業の種類ごとの量の見込み及び実施に関する考え方等

ア 必須事業

A 理解促進研修・啓発事業

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
触法障害者支援事業	研修啓発回数	3回	3回	3回

※ 研修啓発回数：各年度の研修啓発の実施回数（回/年）

事業実施の考え方等

触法障害者支援については、矯正施設を経ずに地域に戻る方への支援（入口支援）についての研究会や研修会を継続的に実施し、関係機関への理解促進や啓発を行います。

B 自発的活動支援事業

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
ピアカウンセリング事業	箇所数	6箇所	6箇所	6箇所
発達障害者総合支援（発達障害児・者家族等支援事業）	補助団体数	8団体	8団体	8団体
地域精神保健福祉対策（ピアサポート事業）	活動件数	22件	25件	28件

※ 箇所数：ピアカウンセリング事業実施施設数（箇所）

※ 補助団体数：各年度の支援事業対象の補助団体数

※ 活動件数：各年度のピアサポート事業活動件数

事業実施の考え方等

発達障害児・者の家族等が実施する相談・余暇活動や、精神障害者のピアサポート活動を引き続き支援します。

見込量については、近年の実績を基本として設定しました。

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
本人活動支援事業 (ボランティア参加促進)	活動回数	96回	96回	96回

※ 活動回数、活動件数：月平均回数、件数（回、件/年）

事業実施の考え方等

街のバリアフリー点検や啓発事業に障害のある人自身が参加する機会を提供し、参加を促していきます。

見込量については、近年の実績を基本として設定しました。

C 相談支援事業・専門性の高い相談支援事業

① 相談支援事業

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
障害者相談支援事業 (障害者基幹相談支援センター)	箇所数	1箇所	1箇所	1箇所
基幹相談支援センター 一等機能強化事業	有無	有	有	有

※ 箇所数：障害者基幹相談支援センター施設数（箇所）

事業実施の考え方等

障害者基幹相談支援センターにおいて、虐待防止センターや住居サポート事業等を併せて実施するなど、総合的・専門的な相談支援を行い、障害のある人への直接支援に加え、他の相談支援事業所への専門的な助言指導を行うことで地域の相談支援体制強化の取り組みを進めます。

② 専門性の高い相談支援事業

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
発達障害者支援センター運営事業	箇所数	2箇所	2箇所	2箇所
	利用者数	976人	976人	976人

※ 箇所数：発達障害者支援センター施設数（箇所）

※ 利用者数：各年度の利用人数（人/年）

事業実施の考え方等

発達障害者支援センターによる相談支援、啓発・研修、機関支援の充実を図るとともに、北九州市立総合療育センター等関係機関との連携強化、ペアレントプログラム・ペアレントトレーニングの実施による保護者支援等の取り組みを進めます。

D 日常生活用具給付等事業

事業量の見込み

種目名	見込む単位等	H30	H31	H32
介護・訓練支援用具	給付又は貸与件数	102件	102件	102件
自立生活支援用具	給付又は貸与件数	412件	412件	412件
在宅療育等支援用具	給付又は貸与件数	323件	323件	323件
情報・意思疎通支援用具	給付又は貸与件数	350件	350件	350件
排泄管理支援用具	給付又は貸与件数	11,678件	11,912件	12,150件
居宅生活動作補助用具（住宅改修費）	利用件数	31件	31件	31件

※ 給付又は貸与件数、利用件数：各年度の年間件数（件/年）

事業実施の考え方等

日常生活用具の給付等については、障害のある人のニーズに応じた用具の検討を行うとともに、提供体制の確保を図るなど、より利用しやすい環境づくりに努めます。

見込量については、近年の給付実績から、排泄管理支援用具については増加、それ以外の用具は現状維持として設定しました。

E 移動支援事業

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
移動支援事業	利用者数	603 人	611 人	619 人
	利用量	88,042 時間	88,218 時間	88,394 時間
重度障害者大学等進学支援事業	利用者数	2 人	2 人	2 人

※ 利用量：各年度の延べ利用時間（時間/年）

※ 利用者数：各年度の月平均利用人数（人/月）

事業実施の考え方等

移動支援事業については、外出のための支援を行うことにより、地域での自立生活及び社会参加の促進を図ります。見込量については、近年の利用実績から設定しました。

重度障害者大学等進学支援事業については、大学等に通学している重度の全身性障害のある人に、通学や学校内の活動において支援を提供することで、大学等への進学支援を図ります。見込量については、市内における対象者の状況などから、利用人数を設定しました。

F 地域活動支援センター機能強化事業

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
地域活動支援センター事業	箇所数	9 箇所	9 箇所	9 箇所

※ 箇所数：各年度末の地域活動支援センター設置箇所数

事業実施の考え方等

センター設置の見込量としては、近年の実績を踏まえ現在の箇所数が継続するものとして設定しました。

G 広域的な支援事業

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
精神障害者地域生活支援広域調整等事業	ピアサポート従事者数	11人	12人	13人

※ ピアサポート従事者数：各年度に従事するピアサポートの人数（人/年）

事業実施の考え方等

国の指針等により、精神保健福祉行政の強化、及び精神障害者の地域移行が進むに伴いピアサポート従事者の需要が高まることが見込まれることから、従事者数は年々増加するものとして見込み量を設定しました。

イ 任意事業

A 日常生活支援事業

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
福祉ホーム	利用者数	20人	20人	20人

※ 利用者数：各年度の月平均利用人数（人/月）

事業実施の考え方等

福祉ホームにおいて、居宅その他の設備など日常生活に必要な便宜の提供を行い、障害のある人の地域生活を支援します。見込量については、近年の利用状況を踏まえて設定しました。

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
生活訓練等・中途視覚障害者緊急生活訓練	利用者数	700人	700人	700人

※ 利用者数：各年度の年平均利用人数（人/年）

事業実施の考え方等

中途視覚障害者の自立や社会参加の促進を図るため、自立生活等に必要な歩行訓練、日常生活動作訓練、コミュニケーション訓練等を実施します。見込量については、近年の利用実績を踏まえて設定しました。

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
訪問入浴サービス	利用者数	24人	24人	24人
	利用量	1,460回	1,460回	1,460回

※ 利用者数：各年度の月平均利用人数（人/月）

※ 利用時間：各年度の延べ利用時間（時間/年）

事業実施の考え方等

訪問入浴サービスについては、常時介護を要する重度の身体障害のある人に適切な入浴サービスを提供することにより、身体の清潔の保持、心身機能の維持等を図ります。見込量については、近年の利用実績を踏まえて設定しました。

事業量の見込み

事業名	見込む単位等	H30	H31	H32
日中一時支援事業 (日帰りショートステイ)	利用者数	135人	137人	139人
	利用量	5,737回	5,814回	5,896回

※ 利用者数：各年度の月平均利用人数（人/月）

※ 利用時間：各年度の延べ利用時間（時間/年）

事業実施の考え方等

日中一時支援事業（日帰りショートステイ）については、障害のある人や子どもの日中における活動の場を確保し、その家族の就労支援及び介護負担軽減を図ります。見込量については、近年の利用実績を踏まえて設定しました。